

ユネスコによる「メディア・情報リテラシー教育」の取組  
UNESCO.ORG (本部フランス)東京学芸大学名誉教授  
篠原文陽児

## はじめに

デジタル化が加速する21世紀。フランスのパリに本部を置く国際機関の一つユネスコは、21世紀に必要とされるリテラシーである読み書き能力を「メディア・情報リテラシー」(MIL, Media and Information Literacy)と命名し、2011年、その教育内容と方法の枠組みを公表している。MILは、子どもから大人まですべての人々が教室や職場の内外で、情報とメディアおよび技術の恩恵に浸りながら学び続ける能力である。人々は、メディアと情報に主体的かつ能動的に働きかけ、批判的に読み、聞き、そして、学んだことに批判的に問いかけ、新たな付加価値のある特色ある情報や知識として書く、つまり、表現する。この詳細および関連する資料は<https://en.unesco.org/themes/media-and-information-literacy>に紹介されている(2019年3月1日現在)。

## メディア・リテラシーと情報リテラシー

メディア・リテラシーと情報リテラシーの2つは、それぞれ異なる学問領域を背景にしている。

メディア・リテラシーの背景には、主にメディアと市民教育があり、情報リテラシーは、図書館学と情報科学が、その背景にある。特に、情報リテラシーは、1974年から、情報の収集、評価、生成、そして、情報と知識の共有を強調して使われる用語になった。一方、メディア・リテラシーは、当初から、メディアの理解と選択、評価、利用の能力を意味し、映像資料の利用教育が最大の関心領域であった。

近年では、メディア・リテラシーと情報リテラシーに、ICTリテラシーとデジタル・リテラシーが加わり、それぞれの興味と関心、人権問題、批判的思考、能力の育成、個人と社会および専門家集団への参加と影響、そして、境界領域の研究方略に、重複が顕著である。中でも、境界領域の研究方略は、21世紀の新たな社会の特色の一つである知識基盤社会に参画する手助けとなる概念で、これら各種のリテラシーの識別をいっそう困難にしている。

## メディア・情報リテラシー (MIL) の理念

MILの理念の一つは、ダイナミックさと先行き

が見逃せない技術的、政治的、経済的、社会的、そして、文化的な環境の多様性に耐え得ることである。そのため、MILは統合化された概念を基調として、各種リテラシーを尊重した包括的な枠組みであり、これを参考とする国や地域は、それぞれの実態に即して内容を組み替え活用することが、強く求められている。また、MILは、言語の多様性と、平和、寛容、および、非暴力と異文化間の対話と統治の促進に寄与する理念を内包している。これは、特に生涯学習と基礎教育の充実および展開の基本である教育の4本柱を具体化する、官民あげて現在進行中の国際プロジェクトである持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)の一つ、教育の質の維持と向上に、高く貢献している根拠となっている。

## 教師のためのメディア・情報リテラシーカリキュラムの枠組み概要

現職の教員や教員養成大学等で教職を目指す学生のためのカリキュラムが、「教師のためのメ

ディア・情報リテラシーカリキュラム」である。内容は2つのパートからなる。

パート1は「MILカリキュラムとコンピテンシー枠組み」で、カリキュラムの基本理念や設計、メインテーマが概観されている。パート2はカリキュラムの詳細な「コアおよびノン・コアモジュール」である。利用者と対象者および学校等環境の実態に応じて組み替えて活用することが重要である。

表は教師のためのメディア・情報リテラシーカリキュラムの枠組みである。6つの領域項目と、それぞれ3つの内容項目で構成され、内容項目は、左第一項目から右第三項目に順次展開されることが期待されている。

## まとめにかえて

2018年6月に、米国マサチューセッツ州初等中等教育局が「2018歴史と社会科学枠組」を公表した。そこには「ニュース/メディア・リテラシー」が、新たなカリキュラム内容として導入され、本稿の枠組みが参考にされている。

表・教師のためのMILカリキュラムの枠組み

主要なカリキュラム領域	民主的な議論のためのメディアと情報の知識	メディアと情報の評価	メディアと情報の生産・制作と利用
政策とビジョン	メディア・情報リテラシーを獲得した教師の養成	メディア・情報リテラシーを獲得した学習者の育成	メディア・情報リテラシーを獲得した社会の推進
カリキュラムと評価	メディア、図書館、公文書館、多様な情報提供の知識と、それらの機能、およびその機能が十分に発揮される条件	メディアの内容および情報源を評価するための基準の理解	情報およびメディアの内容に関する生産・制作法の探究スキル、情報とメディア制作の社会的文化的文脈、市民による利用と目的
教授学	授業の議論における情報とメディアの統合	問題解決のための、メディアと多様な情報提供の内容の評価	教えることと学ぶことを目的とした、利用者側から生まれたコンテンツとその利用
メディアと情報	新聞や雑誌などの印刷メディアおよび図書館、公文書館、博物館、書籍、ジャーナルなどにある情報	ラジオやテレビなど放送メディア	インターネット、ソーシャルネットワーク、情報流通基盤(コンピュータ、携帯電話など)のような新たなメディア
組織と管理体制	授業の組織化に関する知識	メディア・情報リテラシーによる協働	メディア・情報リテラシーの生涯学習への応用
教師の専門職としての成長	市民教育、専門家集団への参加、自分たちの社会の統治のための、MILに関する知識	専門的な学習のためのメディアと情報源の評価および管理運営	リーダーシップと構造的な市民、教師と学習者が成長していくためのMILの推進と利用のための一流の擁護者